

大学発アーバンイノベーション神戸 研究成果報告書

令和5年5月24日

申請区分	一般助成型	課題番号	A20105
研究課題名	灘の酒造家吉田家の文化・学術活動の研究		
研究期間	令和2年～令和4年度		
研究代表者	氏名	加藤明恵	
	大学等	国立大学法人神戸大学	
交付決定額(研究期間全体)	1,104,000円		

○研究成果の概要（400字以内）

本研究では、大阪歴史博物館所蔵「摂津国菟原郡住吉村文書」、神戸市立博物館所蔵「住吉良運商社文書」、住吉歴史資料館所蔵「吉田家関係資料」等の史料調査を行い、江戸時代中後期における、摂津国菟原郡住吉村呉田（現神戸市東灘区）の吉田喜平次家による文化的活動を具体的に明らかにした。

吉田喜平次家は好古図譜『聆濤閣集古帖』を自ら編纂したが、これに加えて、白河藩主松平定信による好古図譜『集古十種』の編纂において、吉田道可が古器物調査に協力していたこと、京都の大寺社や町人・文人との主に茶会を通じた文化的交流をもっていたこと、『聆濤閣集古帖』編纂にかかる資料の来歴などがわかり、畿内を中心に全国的な文化・文芸ネットワークを構築していたことが明らかになった。また、幕末期の吉田家当主（渚翁）による、国学者や幕府旗本との書物・古器物等の情報交換および大和国等における史料調査旅行の様相も明らかにすることができた。

○研究成果の学術的意義や社会的意義（200字以内）

吉田道可による松平定信の『集古十種』編纂に対する調査協力や両者の文化的交流について、史料に基づいて解明できたことは、近世後期の好古図譜の編纂における資料学的研究に寄与する点で意義がある。また、地域の富商による畿内を中心にした文化的ネットワーク構築の一事例を提示できた。これらの成果を国立歴史民俗博物館企画展「いにしえが、好きっ！一近世好古図録の文化誌一」（2023.3.7～5.7）等において広く発表した。

1. 研究開始当初の背景

住吉村呉田の吉田喜平次家に関しては、2017年から、国立歴史民俗博物館の共同研究「聆濤閣集古帖の総合資料学的研究」（研究代表：藤原重雄氏・東京大学史料編纂所）が開始され『聆濤閣集古帖』の史料学的研究が進展した（2019年度終了）。しかし、『聆濤閣集古帖』を編集できた吉田家の社会的・文化的背景について、地域社会との関わりも含めて明らかにする余地がある。吉田家の古器物・書画等収集は、白河藩主松平定信による『集古十種』編集過程で調査対象となっているように、全国的にも注目を集め、吉田家が地域の文化的核として存在したことは知られていたものの、吉田喜平次家の文化活動については『聆濤閣集古帖』の編集や共同研究の成果以外は多くが未解明で、酒造業・廻船業に関しても実態不明である。さらに、灘を代表する豪商であった吉田家の存在すら一般的にはほとんど知られておらず、神戸の近世文化史・社会経済史の重要な一部の解明を欠いている状態にある。

2. 研究の目的

研究目的は、①吉田家の茶会・文化活動における人的交流やその実態、②文化・学術的活動を可能にする家業の廻船業の基礎的事実を明らかにし、③近世灘酒造家をめぐる文化・「知」のありよう・特徴を検討することにある。①については吉田家宛ての書状を分析し、人的交流の身分的・地域的傾向、茶会や文化・学術的活動の内実を明らかにした上で『聆濤閣集古帖』との関連性も検討する。廻船業を中心とする吉田家の経済活動の分析を行い、①のような活動を十分に展開するために必要な経済力の内実を明らかにする。また、経済・金融ネットワークと文化的人脈との相互関連を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、住吉・吉田家の茶会・文化活動における人的交流やその実態、およびこのような活動を可能にする家業の廻船業の基礎的事実を明らかにするため、史料調査を重点的に行うこととした。また、史料調査に際しては、神戸市東灘区の住吉歴史資料館で活動する市民団体の住吉資料調査会と協力をはかった。主な調査対象史料は、①神戸市立博物館所蔵「吉田良運商社文書」、②大阪歴史博物館所蔵「摂津国菟原郡住吉村文書」、③住吉歴史資料館所蔵「吉田家関係資料」である。

①、②の史料に含まれる、吉田家宛ての茶の湯や書籍・書画・古器物等の展覧に関する書状等を写真撮影・翻刻し、京都町人・文人や諸藩の武士、公家らとの多様な文化的交流の様相を検討した。さらに、住吉歴史資料館では吉田家から寄託（のち寄贈）された新出の「吉田家関係資料」を収蔵しており、『聆濤閣集古帖』にかかわる資料も含まれることから、資料整理および調査・研究を実施した。

4. 研究成果

加藤明恵「住吉呉田・吉田家『聆濤閣集古帖』の研究と報告会」『LINK【地域・大学・文化】』vol.12、156-158頁、2020年

加藤明恵「吉田道可による松平定信『集古十種』編纂事業への支援と文化的交流」（内田雅夫編『神戸住吉の豪商 吉田家【論文篇】』pp.75-81、総頁数180頁、一般財団法人住吉歴史資料館、2022年）

加藤明恵「住吉歴史資料館の住吉村呉田吉田家関係資料について」『古文書研究』93号、102-109頁、2022年6月

加藤明恵「成果報告 灘の酒造家吉田家の文化・学術活動の研究」、大学発アーバンイノベーション神戸成果報告会、2023年2月9日、於神戸大学百年記念館六甲ホール

加藤明恵・古市晃『大学発アーバンイノベーション神戸（令和二年度採択） 灘の酒造家吉田家の文化・学術活動の研究 報告書』、2023年

<引用文献>

※大学発アーバンイノベーション神戸による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、神戸市の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。